

各地の女性集会の取り組みを紹介します。

東海北陸地方協女性集会

東海北陸地方協は、11月21日名古屋市内で12支部35人の参加で女性集会を開催しました。



記念講演では、毎日新聞社東京社会部記者東海林智氏による「許すな！労働法制の大改悪一働くことと憲法」についてお話を聞きました。安倍政権の下、働き方が大きく変えられようとしている。そんな時代、今こそ労働組合の役割が重要ということを意思統一しました。

討論の中では、団体交渉によって施設が改善の対応をした。団体交渉の影響は絶大なものがある。反面、非公務員化されたにもかかわらず、旧態依然とした対応をする施設もある。施設の不当な対応にめげず「今まで以上に要求を提出し、団体交渉で改善を求めていこう」と意思統一しました。

集会後は、最寄りの駅頭において、参加者30人で30分間の署名宣伝行動を行い、150筆の「大幅増員署名」を集めました。



中国地方協女性・医(三)集会



中国地方協は、11月27・28日松江宍道湖温泉にて女性・医(三)集会を開催し13支部51名が参加しました。

特別報告として①「組合事務所は『かけこみ寺』」と題して岩国支部が、「施設側の心無い発言で追い詰められた組合員が、相談を抱えて組合事務所を訪ねてくる。それを一つずつ窓口で追及し解決する。最初は泣きながら相談に来た組合員に、『最近どう?』と尋ねたら笑顔でVサインをくれた。たくさんの笑顔とVサインが見られるように頑張りたい」と支部の相談活動について生き生きと報告しました。

②柳井支部からは2013年、不幸にして医療事故に遭遇した職員に対し素早く対応、助言や励まししながら、中地協や顧問弁護士などにも相談し、サポートし続け、昨年不起訴処分になるまで支え続けたことが報告されました。

特別講演として、医労連の温井書記次長による「失われた命から見えるもの」と題したKKR札幌医療センター新卒看護師自死事件についての講演があり、「自死の背

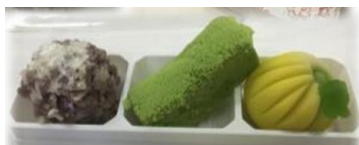


景には過酷な労働環境があったこと、職員を守るのは労働組合だ」ということが語られ参加者は、いつ自分たちの職場で起こってもおかしくない実態を切実に感じながら講演を聞きました。

その後7グループに分かれ講演の感想や職場での問題、組合活動について討議し、全体会で発表。職員の悩みや愚痴を聞き、支え、守っていくのが組合の役割ということを確認できました。

二日目には、松江市内「カラコロ工房」で、参加者全員でお香作り体験と和菓子作り体験をしました。

参加者の個性あふれる“菊”の和菓子ができました。



四国地方協女性集会

四国地方協は、12月8日地方協事務所にて7年ぶりの女性集会を開催し、7支部27人が参加しました。

1日目は本部佐々木中央執行委員を講師に「女性の権利」についての学習会の後、各支部の取り組みと職場の問題を出し合い経験交流しました。

年休問題では「3ヵ月単位の年休取得計画表を使って年休希望している」「団体交渉でアンバーサリー休暇で年休取得促進を確認した」「年休希望を入れるが本人の確認もなく消されてしまう」「代休優先で年休取得できない」「割り当て年休を付けられ欲しい時に取れない」など職場の実態について語り合いました。

2日目は大島青松園にて、自治会長からハンセンの歴史についてのお話を聞いた後、施設を見学し、支部組合員からは、「強風で翌日の船舶の出航が危ぶまれる時、島に待機しなければならない」とハンセン病療養所ならではの問題があることを学びました。

一日目の集会終了後、交流会会場で医労連青年部の「憲法9条にカンパイ」アピール行

動に賛同の写真撮影をしました。

会場となったネパール料理店の従業員の皆さんにも参加していただきました。



2016年女性部の予定

2月16・17日	女性部長会議
3月17日	ワン行動デー
3月末	ピジョン賃金交渉
6月4・5日	第45回保育所会議
7月14～16日	全国大会



今年も一年間お疲れ様でした。

来る2016年が組合員の皆様にとって良い年になりますように。

みんなが ホットできる
職場環境に しなくては…

